

「農業技術の匠」： ^{やまさき} ^{しろうきち} 山崎 章吉 さん（愛媛県伊予市）

～ 温室みかんの高品質安定7トン採りと省エネ、省力化技術 ～



〔山崎 章吉さん〕

1 技術確立の背景(目的)

山崎さんは、1972年に就農し、露地みかん栽培を行っていましたが、1982年に温室みかん導入後は計画的に規模拡大を進め、現在66aで温室みかん中心の経営を行っています。

しかしながら、近年、温室みかんは、販売価格の低迷、資材や燃料費の高騰により、収益率が大幅に減少しています。

このため、温室みかんの生き残りをかけて、1999年にJA温室みかん部会員20名と研究プロジェクトチーム「夢遊館」を結成し、高品質で安定した7トン採り栽培技術、換気作業の省力化技術、多重被覆による省エネ技術のマニュアル化に向けた実証試験を始めました。

2 技術概要(技術効果)

(1) 7トン採り技術の確立

元気な根・葉をつくとともに、生育ステージ毎の適正管理、総合カルテ方式の活用により、温室みかんの7トン採り技術を確立しました。

(2) 傾斜地ハウスの換気作業の省力化

パイプ巻き上げ機方式の活用により、ハウスの天張り被覆のフルオープン化を図り、換気作業時間を従来の10分の1と大幅な省力化を実現しました。

(3) サンドイッチ方式被覆による省エネ化

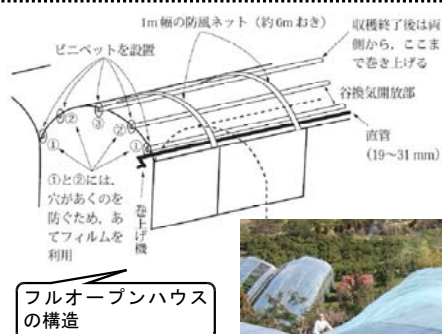
2重被覆の外張りの上に1枚フィルムを重ね、2枚のフィルムの中に防虫ネットを挟む3重被覆により、従来の2重被覆よりも燃料費を24%削減する省エネ化を実現しました。

3 技術の地域への活用状況(普及状況)

7トン採り栽培技術はマニュアル化され、プロジェクトチーム員の半数以上が7トン採りを達成しています。また、他の農家へも栽培技術を公開して、JA温室みかん部会全体の経営安定にも協力しています。

傾斜地ハウスの巻き上げ式フルオープン技術により、JA管内の温室みかんハウス全てがパイプ巻き上げ方式を導入し、作業の省力化と安全性に貢献しています。

被覆のサンドイッチ方式は、県の補助事業対象として普及が進んでおり、JA管内の温室みかんハウスの半数以上に導入されています。



〔サンドイッチ方式の3重被覆作業〕

※最寄りの普及指導センター { 愛媛県中予地方局産業振興課伊予農業指導班
住所：愛媛県伊予市市場127-1
TEL：089-982-0477

<「農業技術の匠」のポイント>

高収量(7トン採り)・高品質安定栽培技術

(1) 元気な根づくり

- ① EM活性液散布による未熟堆肥の完熟化を図る。
- ② 樹勢の弱った樹には堆肥の施用後、株元に保水マルチを敷き細根の発生を促す。



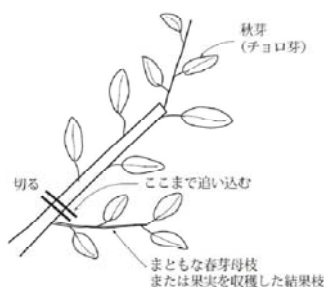
株元マルチ



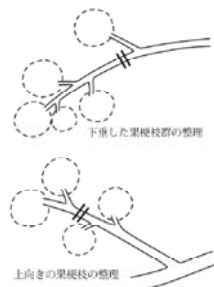
マルチ下の細根発達状況

(2) 元気な葉づくり

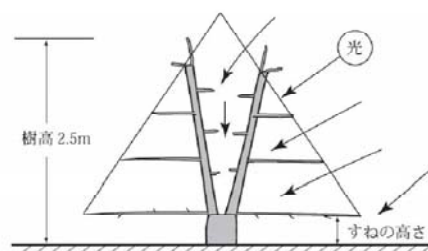
- ① アミノ酸入り葉面散布剤を利用する。
- ② 剪定により光が樹全体に入る樹形を確立する。
- ③ 果梗枝の切り返し剪定により揃った新梢を発生させ葉数と着果数を増やす。



秋芽処理の方法



成りかす枝の整理



樹形の基本

(3) 生育ステージごとの適正管理の徹底

- ① 収穫後の樹勢回復。
- ② 花芽分化促進対策。
- ③ 開花期前後の温度管理。
- ④ 水戻し期以降の水管理。

(4) 総合カルテ方式の活用

- ① 果実肥大調査データの記録。
- ② 栽培管理データの記録。
- ③ データを蓄積して次年度の対応策の検討に活用する。

これらの技術を活用することにより、全国のハウスムカンの平均収量(4.8トン:H19)を大幅に上回る7トン採りを実現しています。

<反収7トン採りをめざす生育ステージの管理>

